

# 令和3年度第2回宮城県亘理地域農業普及活動検討会

日時 令和4年1月25日(火)  
午後1時30分から3時まで  
場所 亘理農業改良普及センター2階会議室

## 次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 検 討

(1)令和3年度プロジェクト課題の実施状況について

(2)令和4年度普及指導計画(案)について

4 総合討議・意見交換

5 閉 会

令和3年度 第2回亶理地域農業普及活動検討会 出席者名簿

<検討委員>

(敬称略)

所 属	役 職	氏 名	備 考
宮城県指導農業士	(有)やさい工房八巻 専務	八巻 静	欠席
宮城県青年農業士	(株)一莓一笑代表	佐藤 拓実	
(公)仙台市産業振興事業団	野菜ソムリエ上級プロ	カワシマヨウコ	
亶理山元商工会	副参事	佐藤 良一	
名取市生活経済部農林水産課	課 長	菊地 俊雄	
岩沼市市民経済部農政課	課 長	森 康雄	
亶理町農林水産課	課 長	菊池 広幸	
山元町農林水産課	課 長	佐藤 和典	
JA名取岩沼営農部営農支援課	課 長	吉田 尚文	代理出席
JAみやぎ亶理営農部	次 長	郷内 英則	代理出席

<普及センター職員等>

所 属	役 職	氏 名	備 考
農業振興課普及支援班	革新支援専門員 技術主幹	日向 真理子	
亶理農業改良普及センター	所 長	井上 眞弘	
〃	技術副参事 兼総括次長	櫻田 英子	
〃 地域農業班	技術次長(班長)	吉田 敏幸	
〃 〃	技術主幹	山家 いずみ	
〃 〃	技術主幹	大友 一司	
〃 〃	技術主査	伊藤 愛	
〃 先進技術班	技術次長(班長)	佐藤 敏昭	
〃 〃	技術主幹	小野寺 康子	
〃 〃	技術主幹	横田 悦子	
〃 〃	技術主幹	高橋 秀典	
〃 〃	技 師	鈴木 俊矢	
〃 〃	技 師	松崎 航	
〃 〃	技 師	浦郷 宣秀	

# 令和3年度 プロジェクト課題一覧表

資料 1

No	プロジェクト課題名	計画期間	対象（対象農家・地域名等）	進行管理担当班 担当者名
1	次代につなぐ大規模法人の生産体制整備による経営の安定化 〈「農地中間管理事業」「アグリテック」関連課題〉	平成31年度 ～ 令和3年度	(農)玉浦中部ファーム (岩沼市)	地域農業班 ◎大友一司 吉田敏幸 山家いずみ 伊藤 愛 松崎 航
2	新品種「にこにこベリー」導入定着によるいちごの安定生産 〈「園芸振興」関連課題〉	令和2年度 ～ 令和3年度	J A みやぎ 亘理いちご部会「にこにこベリー」生産者21人（管内いちご生産者及びいちご生産法人） (亘理町, 山元町)	先進技術班 ◎鈴木俊矢 小野寺康子 浦郷宣秀 井上眞弘
3	「シャインマスカット」の栽培技術力の向上による生産拡大 〈「園芸振興」関連課題〉	令和2年度 ～ 令和3年度	管内ぶどう生産者4人, ((農)志賀) (亘理町, 山元町, 岩沼市)	先進技術班 ◎横田悦子 佐藤敏昭 松崎 航 櫻田英子
4	新たな取組の定着による持続可能なカーネーション産地の実現  〈「園芸振興」関連課題〉	令和3年度 ～ 令和4年度	名取市カーネーション生産者16人 (名取市)	先進技術班 ◎高橋秀典 佐藤敏昭 山家いずみ 浦郷宣秀

「農地中間管理事業」：農地中間管理事業を活用した農地集積と新たな地域営農システムの構築に向けた支援

「アグリテック」：農業にICT（情報通信技術）等のテクノロジー（技術）を導入することで省力化を図るなどの課題を解決すること。

## 次代につなぐ大規模法人の生産体制整備による経営の安定化



計画期間：令和元年～令和3年  
 対象：農事組合法人玉浦中部ファーム  
 チーム員：大友一司、吉田敏幸、山家いずみ、伊藤愛、松崎航

## 2 課題の対象者

農事組合法人玉浦中部ファーム(岩沼市)

- 設立  
平成25年12月
- 構成員  
役員8名、従業員2名
- 経営面積（令和3年）  
 水稲 41ha  
 大豆 53ha  
 野菜 53a（はくさい39a、スイートコーン14a）



## 4 活動の成果

(1) 農作業データを活用した作業管理体制の確立支援

平成30年  
 100ha規模の農地を管理  
 するため、経営・生産管理  
 システム(KSAS)を導入



- ① システム運用の体制整備
- ② 農作業データの活用  
 に向けた支援が必要

## 1 課題の背景

- 震災後、管内の沿岸部では、大規模土地利用型法人が多数設立されている。
- 大規模法人では、効率的な運営のため、膨大な作業データの適正管理が必要である。
- 法人構成員の高齢化に伴い、次代を担う人材の確保・育成が必要である。
- 安定した法人経営を行うためには、売上の確保が必要である。

## 3 活動目標及び活動事項

### ● 活動目標

- (1) 経営・生産管理システムの運営体制が整い、データの有効活用等により、営農の効率化が図られる。
- (2) 人材の確保・育成体制が整備され、次代の法人を担う社員を育成・定着させられる。
- (3) 新技術の導入等による大豆単収の向上や新品目の導入で法人の売上が向上する。

### ● 活動事項

- (1) 農作業データを活用した作業管理体制の確立支援
- (2) 法人を担う人材の確保・育成体制の整備支援
- (3) 新品目の作付及び水稲・大豆の新技術の導入・定着支援

## 4 活動の成果

(1) 農作業データ

### ① システム入力の基本ルールを設定

最初の問題

担当者によって、入力項目がバラバラなため、データの集計・活用が困難

### ● 入力ルールを整備

- ・ 誰が入力するか
- ・ 入力項目（作業名）を統一
- ・ 定期的に入力状況を確認 等

- ◎ 担当者が基本操作をマスター、データ集計も可能な体制となった。



担当者と定期的に入力項目を確認



## 4 活動の成果

(1)農作業データ

### ②農作業データの活用

●定期的に操作研修を実施

- ・データ整理、集計
- ・基本的な分析方法 等



◎データの活用を開始

- ・基本的な集計が可能
- ・作業の進捗管理(作業指示)に活用



データ集計方法に関する研修を実施



KSASデータを経営に活用

## 4 活動の成果

(1)農作業データ

### ③さらなるデータの活用に向けて

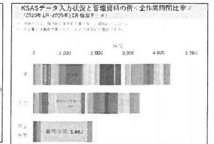
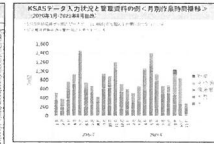
◆アグリテックアドバイザーによる助言



今後の目標

◎データ活用による経営改善

- ・重点改善作業の明確化
- ・作物別の収益性比較
- ・ほ場別の収益性比較 等



## 4 活動の成果

### (2)法人を担う人材の確保・育成体制の整備支援

#### ①就業規則・諸規程の整備

●従業員の採用に向けた体制整備

- ・素案作成の支援
- ・社会保険労務士からの助言 等



◎就業規則・諸規程の整備

- ・就業規則 (改訂)
- ・給与規程
- ・役員服務規程 等



社会保険労務士からの助言

## 4 活動の成果

(2)人材確保・育成

### ②経営承継計画(中長期計画)の作成

●主要な役員の退職に備え、経営承継計画の作成を支援



◎役員の退職時期が明確となり、今後必要な人材も明らかになった。



経営承継計画を検討

## 4 活動の成果

(2)人材確保・育成

### ③人材の確保・育成

●求人の実施体制の整備

- ・会社案内の作成、農業法人説明会への参加等 求人活動を支援



◎従業員を採用

(R2:1名、R3:1名)



従業員採用に向けた相談対応



会社案内リーフレット

## 4 活動の成果

### (3)新品目の作付及び水稻・大豆の新技術の導入・定着支援

#### ①新品目の作付

◆KSASデータの活用した提案



◆当初の法人の考え

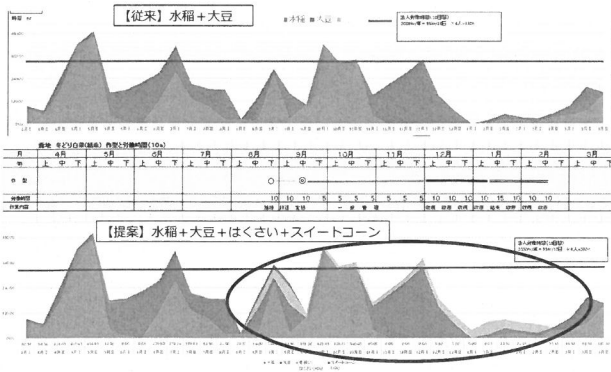
- 「人手ばかりかかる・・・」
- 「儲からない・・・」
- 「農閑期の仕事はいくらでも・・・」

☆ 売上貢献だけではなく、新たに雇用する社員の働き場の創出を強調

#### 4 活動の成果

(3)新品目・新技術

##### ◆KSASデータの活用した提案



#### 4 活動の成果

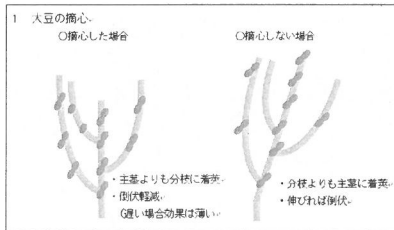
(3)新品目・新技術

##### ②大豆摘芯栽培

「ミヤギシロメ」は、分枝が長く株が開張する草型。過繁茂により倒伏しやすく、作業性の悪化や収量の低下が問題。



対策として、摘芯栽培を導入。



#### 4 活動の成果

(3)新品目・新技術

##### 令和3年 新品目の作付

スイートコーン：14a  
秋冬はくさい※：39a

※はくさい栽培前に緑肥として、「エン麦」を栽培

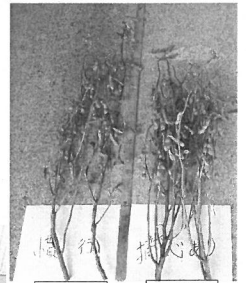


#### 4 活動の成果

(3)新品目・新技術



摘芯処理



慣行株

摘芯株



摘芯株と慣行株の比較

#### 4 活動の成果

(3)新品目・新技術

##### ◆大豆摘芯栽培面積等の推移 (令和元年～令和3年)

	大豆面積 (ha)	うち摘芯面積 (ha)	摘芯面積割合 (%)	平均単収 (kg/10a)
令和元年	42	8	19.1	177
令和2年	43	16	37.2	198
令和3年	54	26	48.2	210※

※令和3年単収：調査中  
H28～H30平均単収：145kg

#### 4 活動の成果

(3)新品目・新技術

##### ③水稲乾田直播栽培

##### ●令和3年から栽培を開始 (1.7ha)

- ・生育調査を実施
- ・管内生産者を対象とした勉強会を開催 (6/24、7/29、1/18)



##### ◎移植栽培と遜色ない収量を確保

- ・令和4年は2.0haで栽培を予定



水稲乾田直播栽培勉強会の様子

## 4 活動の成果

---

### ◎まとめ

- ①経営・生産管理システムの入カルール整備。  
担当者がデータ集計を実施できるようになり、作業の進捗管理にシステムを活用。
- ②就業規則等を整備、事業承継計画を作成し、必要な人材の確保・育成を開始。
- ③基幹作物である大豆の生産が安定。  
農閑期である冬場に社員が従事できる新品目を導入。

## 5 今後に向けて

---

- ①農作業データの経営改善への活用
- ②主要な役員の退職に備えた後継者の育成
- ③後継者への技術継承  
農作業データを活用した新品目等の評価

# 新品種「にこにこベリー」導入定着によるいちごの安定生産



計画期間：令和2年度～令和3年度

対象：JAみやぎ亙理いちご部会「にこにこベリー」生産者21人  
(管内いちご生産者及びいちご生産法人)

チーム員：○鈴木俊矢, 小野寺康子, 浦郷宣秀, 井上真弘



## 課題の背景

- 新品種「にこにこベリー」は県、外部機関によるマスコミを活用した手厚いPR展開があり、早期の普及が期待されている。
- 苗の充実不足や無理な早植えは、連続して収穫できなくなる「中休み」が発生するなどの課題があり、これらを解決するためには、育苗管理を適正に行い適期に定植することが必要である。
- 3月以降の収量性が特に良いため、出荷量増加に対して作業労力が不足するなど、収穫量に対する労力のバランスがとれない状況にある。

## 設定した目標

- 適切な育苗管理と夜冷処理を含む適期の定植により年内から連続した収穫が可能になる
- 活動事項①：適切な育苗管理と中休みの少ない栽培管理への適正化支援
- 既存品種との組み合わせによる、労力に適合した面積を決めることができる
- 活動事項②：導入モデル改訂版作成と作付計画策定支援

## 活動事項①適切な育苗管理と中休みの少ない栽培管理への適正化支援

- ①-1普及展示ほの設置(亙理町1か所, 山元町1か所)
- ①-2生産者に対する個別巡回指導
  - ・育苗期の親株, 培土, かん水等の肥培管理を徹底し充実した苗づくり
  - ・年内出荷に向けた, 夜冷処理時期の設定と定植適期に対する助言
- ①-3肥培管理等に関する資料作成と配布(②-3参照)
- ①-4普及センター通信の作成と配布(②-3参照)



## ①-1普及展示ほの設置

- 展示ほ2か所に環境モニタリング装置(あぐりログ)の設置
- 定点カメラを設置し, 草丈を記録(園芸推進課と連携)
- 環境, 生育データを活用し, ウィークリーレポートを作成し生産者と共有
- 展示ほの生育状況は普及センター通信で毎月情報発信



## ①-2個別巡回指導

- R4年産から新規で「にこにこベリー」を作付けする生産者を重点支援対象者に位置付け, 担当者が定期的に巡回指導を実施。
- 育苗時の肥培管理の徹底により, 安定した苗確保, 充実した苗生産の実現。
- 目標の収穫開始日から逆算し, 夜冷処理, 育苗作業のタイミングについて指導, R4年産から栽培開始した生産者も年内から安定して収穫を開始。



## 活動事項②導入モデル資料改訂版作成と作付け計画策定支援

- ②-1にっここベリーアンケート調査の実施
- ②-2モデル資料作成
- ②-3普及センター通信を毎月発行
- ②-4モデル資料改訂版作成(予定)

R2年活動

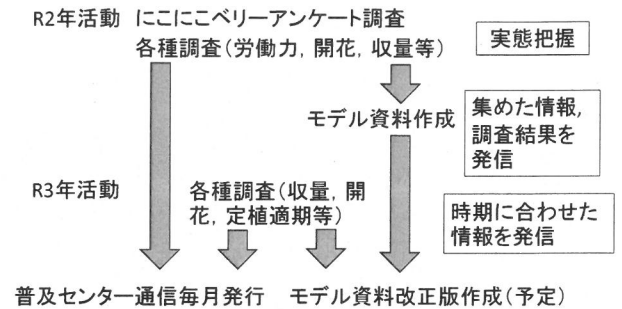
R3年活動



モデル資料

普及センター通信

## 活動の推移



## ②-1にっここベリーアンケート調査の実施

- 対象: 亘理町・山元町のいちご団地生産者  
にっここベリー栽培者10名  
にっここベリー未栽培者44名
- 結果(一部抜粋)  
(ア)にっここベリー栽培者  
摘果普通 小玉普通 パック詰め楽  
(イ)にっここベリー未栽培者  
摘果大変 小玉多い パック詰め大変  
イメージと実際の部分では差があることが分かった

## ②-2モデル資料の作成

- アンケート調査の実施に加え、農業園芸総合研究所との収穫調整に関する労力調査の実施。
- 調査結果をもとに、導入モデルを提案  
(ア)労力に適合した作付け計画ができるようサポート。  
(イ)にっここベリーの栽培技術や栽培のポイントについて記載。
- 今後モデル資料の改訂版を作成、配布予定。



アンケート調査の様子



出荷調整調査の様子

## ②-3普及センター通信の作成

- アンケート調査の結果から、栽培の実際について発信する必要があると判断。
  - にっここベリーの特徴や、栽培方法に加え、普及展示ほでの栽培状況を月に一度「普及センター通信」として発行。
- 【普及センター通信の内容(展示ほの状況は毎月掲載)】
- 5月号 にっここベリーの栽培スケジュール
  - 6月号 中休みの少ない作型と親株の肥培管理
  - 7月号 令和3年産出荷量、等級
  - 8月号 株間と等級、定植後の肥培管理
  - 9月号 令和4年産苗の花芽分化状況
  - 10月号 第1腋花房の分化状況と今後の養液管理
  - 11月号 厳寒期の温度・電照管理
  - 12月号 着果数整理

## 活動の成果

- 育苗管理方法について再確認し、管理の中では肥培管理を特に意識するようになった。
- 資料提供や巡回時の情報提供により、親株の追肥や苗の肥料を多めにやるなど、「にっここベリー」に合わせた育苗管理ができるようになった。
- 生産者毎に「にっここベリー」の栽培面積の提案や、収量、等級、株間等について情報提供を実施し、経営に合った作付け計画を立てられるようになった。
- 中休みが発生しにくい9月上中旬の定植を勧め、適期定植と定植時期に合わせた栽培管理ができるようになった。

## にっこにこべリーの作付け面積と生産者数(JAみやぎ亙理いちご部会)

年次別	生産者数 (人)	面積 (ha)
H30年産	2人	0.07
H31年産	16人	1.5
R2年産 (本格デビュー)	18人	2.2
R3年産	27人	3.98
R4年産	30人	5.72

## にっこにこべリー、とちおとめ、もういっこの出荷状況(JAみやぎ亙理いちご部会)

品種名	年内収量 (kg/10a)			合計収量 (kg/10a)		kg単価(円)	
	R2年産	R3年産	R4年産	R2年産	R3年産	R2年産	R3年産
にっこにこべリー	818	764	698	5334	5355	1281	1310
とちおとめ	688	768	670	4055	4420	1293	1364
もういっこ	423	457	528	4468	4758	1263	1258

●にっこにこべリーは年内、合計収量共に多い傾向。

●「にっこにこべリー」の年内出荷量増加率

目標 R1:100% → R2:125% → R3:150%

実績 R1:100% → R2:170% → R3:217%

※年内収量と栽培面積から算出

## 今後の活動

- モデル資料改正版の作成・配付。
- 普及センター通信の発行(今作予定)。
- 更なる単収増加に向けた、栽培技術の向上支援。
- 新規栽培者が増加するため、栽培技術を速やかに習得できるように支援。
- 若手生産者の技術向上支援  
(新規就農、後継者等)





プロジェクト課題No.3

## 「シャインマスカット」の栽培技術力の向上による生産拡大

計画期間：令和2年度～令和3年度  
 対象：管内ぶどう生産者4人、((農)志賀)  
 チーム員：横田悦子、佐藤敏昭、松崎航、櫻田英子

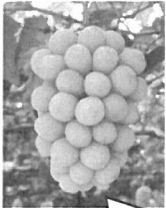
1

## 課題の背景

- 管内の直売所では、消費者を呼び込む目玉品目として「シャインマスカット」に注目しているが、生産者が少なく需要に応えられない状況。
- 管内には、ぶどうの生産部会等が無く、生産者の多くが独学で栽培に取り組んでいるため、体系的な技術習得の機会が要望されている。
- また、他品目との複合経営では、農繁期の作業競合が生じている。

2

## (参考) シャインマスカットについて



国立研究開発法人 農業・食品産業技術研究機構にて、平成18年に品種登録。

- マスカット香があり皮ごと食べられる
- 果皮が薄いの裂果しにくい
- 緑色ブドウなので着色管理が不要
- 脱粒しにくく貯蔵性・流通性が優れる
- 技術習得が楽な短梢栽培が可能

糖度20度位。酸味が少なく、渋みがない！

### ○栽培特性

やや難 > 中位 > 容易  
 巨峰・ピオーネ > シャインマスカット > スチューベン

3

## 活動目標および活動事項

### ○活動目標

- 新技術・省力化技術習得によりぶどう「シャインマスカット」の収量や売上が向上する。

### ○活動事項

- シャインマスカット栽培者への栽培技術支援
- 組織化への意向確認，設立支援
- 消費者へのPR支援

4

## 対象者について

	A氏 (巨理町)	B氏 (巨理町)	C氏 (山元町)	D農事組 合法人 (岩沼市)	E株式会社 (山元町)
主な栽培品目	りんご	りんご	ぶどう	水稲・大豆・育苗	いちご
シャイン栽培概要	・7年生 ・雨除けハウス ・短梢せん定	・5年生 ・パイプ ・樹形改善中	・4～9年生 ・パイプハウス他 ・短梢せん定	・植栽2年目(樹冠拡大中) ・水稲育苗用パイプハウス	・植栽2年目(樹冠拡大中) ・パイプハウス

5

## 活動事項 ①

### シャインマスカット栽培者への栽培技術支援

#### 1)高品質化に向けての取組み内容の例

課題	考えられる要因	習得技術
実がつかない(落ちる)	養分競合等	・摘心や花穂整形，植物成長調節剤の散布のタイミング
種なし処理をしても種がある	樹勢低下、気象条件	・植物成長調節剤の散布のタイミング
花穂(つぼみ)が小さい	若木時の特性	・植物成長調節剤の散布の利用
房の整形、果粒密着による裂果、果粒肥大不良	果粒が多い等	・摘粒時期、方法
糖度が低い	養分競合、水分過多等	・適正な収量 ・排水対策
果皮黄化、褐変障害「かすり症」発生	幼木	・着色袋の利用

6

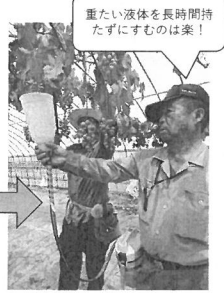


### 活動事項 ①

#### シャインマスカット栽培者への栽培技術支援

#### 2)省力化に向けての取組内容

課題	習得技術
新梢・副梢管理	・ フラスター液剤 ・ 摘心のタイミング
花穂形成時間	・ 花穂形成器の利用
ジベレリン処理	・ 軽労化器具の利用
せん定時間	・ 短梢せん定仕立て

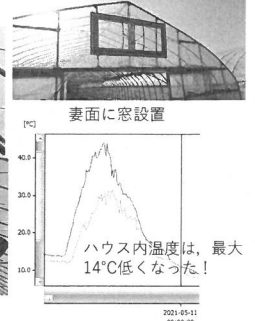


県作成マニュアルに基づく栽培管理支援  
→着実な技術習得と品質向上に繋がった

### 活動事項 ①

#### シャインマスカット栽培者への栽培技術支援

#### 3)育苗ハウス内温度の改善

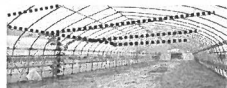
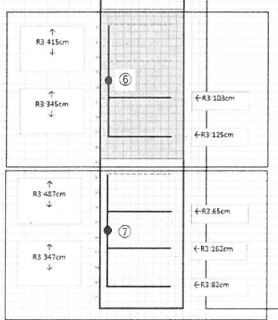


- ・ 開花時期等の高温障害対策
- ・ 作業環境改善に貢献

### 活動事項 ①

#### シャインマスカット栽培者への栽培技術支援

#### 4)今年度のぶどう生育結果 (D農事組合法人)



・ 昨年、高温になるハウス西側の伸びが著しく悪かったが、今年度は順調。

ほぼ予定どおりに樹冠拡大。来年から収穫開始!



【参考】E法人の生育状況

### 活動事項 ①

#### シャインマスカット栽培者への栽培技術支援

#### 5)研修会風景



第1回 上: 農園研講師による説明  
下: 今年度の技術目標打ち合せ



第2回 根域制限栽培の視察の様子

### 活動事項 ②組織化への意向確認, 設立支援

- 栽培者の拡大, 生産者全体の継続した技術習得や情報交換の場のための組織化について, 関係機関と共に支援

→ 既存組織 (巨理名取果樹振興協議会) でのぶどう研修会開催について, 了承を得た。

→ 国果樹支援事業の活用を見据えて, シャインマスカット等を含めた果樹の「産地構造改革計画」策定を支援 (現在, 生産者へのアンケート調査実施中)。



R3.12.24 「巨理・山元果樹産地協議会」設立

### 活動事項③消費者へのPR支援

- 産地としてのイメージ定着に向けて, PRイベント開催支援, 商品開発支援, 産地共通マークの開発支援を関係機関と共に実施



シャインマスカット デザイン専門家の打ち合せ



商品開発勉強会

商品開発支援



## これまでの活動成果

### 活動指標

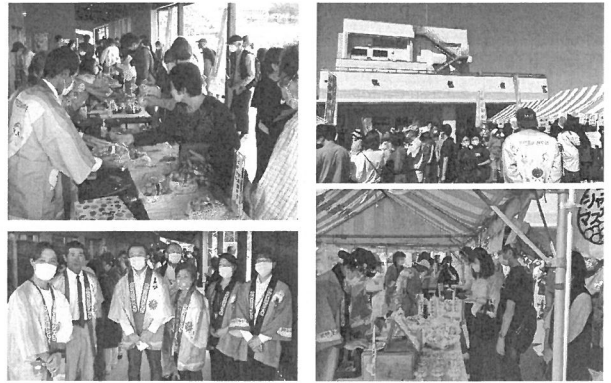
	【令和元年】	【令和2年】	【令和3年】
販売額増加率： (実績値)	100%	105%	110%
		105%	645%

～対象者からのご意見より～

- 技術習得内容の目的や目標が明確になり、作業時に意識して取り組めるようになった。
- 研修会や相互視察での生産者間の情報交換を通じ、栽培技術や知識が向上した
- 活動を通じて、次作への改善点を把握することができ、栽培技術確立への意欲がさらに向上した。

13

## これまでの活動成果（産地PR支援）



「シャインマスカット販売会」（左側：R2 やまもと夢いちごの郷、右側：R3 鳥の海ふれあい市場） 14

## これまでの活動成果（産地PR支援）

【シャインマスカットスイーツの紹介】

シャインマスカットは、甘みと酸味のバランスが絶妙で、食感も爽やかな品種です。その魅力を最大限に引き出すために、様々なスイーツを開発しました。

**旬菜館**

原簿町法隆寺十字堂276  
TEL: 0273-34-8287  
営業時間: 11時～18時00分

※おしとろい、お漬物、お味噌汁もご用意しております。

**アラブルージュ**

原簿町長子銀行150-150  
TEL: 025-2367-4190  
営業時間: 11時～18時

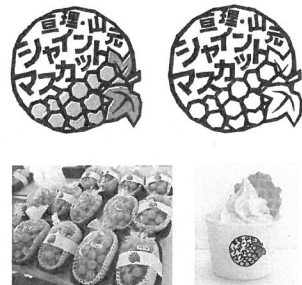
※おしとろい、お漬物、お味噌汁もご用意しております。

鳥の海ふれあい市場  
鳥取市長子学術会館14-22  
(鳥取市東区 0225-35-2226)

シャインマスカット プレミアム  
ソフトクリーム (個: 400円)

「シャインマスカット」新商品

15



巨理・山元町内の生産者、商品販売者は共通マークを自由に使用することができます。



- ・ 『総合勉強会』（2月）
- ・ 生育調査データ等を基に、次作に向けた栽培技術の改善検討
- ・ 次年度のイベント開催計画

16

## No4 新たな取組の定着による持続可能なカーネーション産地の実現

- 計画期間: 令和3年度～令和4年度
- 対象名: 名取市花卉生産組合のカーネーション生産者16名
- 課題の背景

・名取市はカーネーション出荷額が東北一の産地である。市内の生産者を中心に名取市花卉生産組合が組織され、産地活動を行っているが、近年は高齢化が進み、作付面積や出荷額は減少傾向にある。

・産地の中核を担う組合員は、集約が進む稲作等の担い手でもあるため、施設管理に係る労力に負担感があり、生産の効率化が必要になっている。また、カーネーション産地のPRを進めたいという産地内の強い希望もあり、それぞれ試験的な取り組みが始まっているが、組合内での情報共有は不十分であり、定着には至っていない。

・生産の効率化に向けた技術として、天敵や防虫ネット等を利用した害虫防除により農薬の散布回数を減らす技術(IPM防除)や、施設の暖房時間の調整により燃油消費量を削減し、暖房費を低減する「EOD-heating」があるが、栽培品種や気象条件等に合わせた地域適応技術としての確立が課題となっている。

・東日本大震災以降、消費者から「名取のカーネーションを購入したい」との問い合わせが増えていくことを踏まえ、実需者と連携することで「産地表示販売」の試行が始まっている。花き分野では産地による差別化の事例が少なく、知名度を向上させて販促に役立つ可能性があるが、生産者のみならず行政や卸、仲卸業者、小売販売店等も含めた幅広い協働が必要である。

### 令和3年度

目標	活動事項	成果
<p>■新たな生産技術のカーネーション栽培体系への位置付けが明確になる。</p>  <p>IPM現地検討会の様子 (現地ほ場での検討)</p>	<p>◆新たな生産技術の導入支援</p>  <p>IPM現地検討会の様子 (室内での検討)</p>	<p>○IPM防除の現地実証の支援により、天敵活用等、各種対策の防除効果を確認することができた。</p> <p>○IPM現地検討会の開催(10/22)により、天敵を含めた防除暦(案)等を全体で共有し、意見交換を行うことで、支援対象者の理解を深め、取組の意欲を高めることができた。また、アンケート調査により、出席者の全員が農薬以外の防除方法に関心を示していることがわかった。</p> <p>○一連の活動により、新たな生産技術(IPM防除、EOD-heating)の適した実施時期や期待すべき効果の大きさが明確になり、技術導入者が増えた(IPM防除:2名→4名。EOD-heating1名→2名)。</p>
<p>■生産者と実需者との間で、産地表示販売の定着に向けたロードマップが作成される。</p>  <p>生花店に協力を依頼する</p>	<p>◆産地表示販売の導入支援</p>  <p>産地のしおりの編集会議</p>	<p>○生産者が主体となった取組を誘導することで、母の日前の需要期に、量販店と地元小売店(5店舗)で産地表示販売を実現することができた。</p> <p>○産地表示販売検討会を開催し、今後の取組計画を関係機関も含めて共有するとともに、消費者アンケート調査で確認されたカーネーションに対するニーズについて、理解を深めることができた。</p> <p>○産地表示販売に併せたPR資料として、産地紹介パンフレット作成の機運が高まり、支援対象者による編集作業が始まった。年度内に完成し、地元小学生の産地訪問による体験学習にも活用される予定である。</p>

### 意図する対象の変化(最終年)

- 効率的な害虫防除と加温管理により、労力と費用を抑えた生産ができる。
- 産地表示販売の実現により、産地を持続、発展させる意欲が醸成される。

数値目標：新たな生産技術の導入農家数 R2年度:3戸 → R3年度:5戸 → R4年度:8戸  
(実績 6戸)

# 「新たな創造 えんげい王国 亘理・名取」

## 亘理農業改良普及センターの取り組み（令和4年度普及指導計画）

### 普及事業の指針・方針

#### 協同農業普及事業の運営に関する指針(国指針)

- 1 担い手の育成・確保
- 2 スマート農業の実践等による生産・流通現場の技術革新・生産基盤の強化
- 3 気候変動への対応等環境対策の推進
- 4 食料の安定供給の確保
- 5 農村の復興
- 6 東日本大震災からの復興と大規模自然災害等への対応

#### 協同農業普及事業の実施に関する方針(県実施方針)

(計画期間: R3~R7)

- 1 みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化
- 2 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給
- 3 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

#### 亘理地域普及指導基本方針(地域方針)

(計画期間: R3~R7)

- 1 生産技術の高度化による競争力の高い園芸産地の確立
- 2 次世代につながる収益性の高い水田農業・畜産経営の確立
- 3 地域農業を支える多様な人材の確保・育成
- 4 農村地域の資源活用と持続可能な農業・農村の構築

### 普及指導方針(年度方針)

#### 令和4年度重点活動項目

- (1) 生産技術の高度化による競争力の高い園芸産地の確立
- (2) 次世代につながる収益性の高い水田農業・畜産経営の確立
- (3) 地域農業を支える多様な人材の確保・育成
- (4) 農村地域の資源活用と持続可能な農業・農村の構築

- (1) 生産技術の高度化による競争力の高い園芸産地の確立  
県内一の園芸産地の維持・発展を目指し、野菜、花き、果樹を中心とした園芸産品目生産の増大に向け、先進的技術の導入や新品目等の導入等による競争力の高い産地確立に向け、各市町、農業団体、試験研究機関等の関係機関と連携しながら普及活動を展開していく。
- ① 野菜の生産技術の高度化による産地力強化
- ② 果樹の省力化技術の導入による産地維持と新種導入品目の産地育成
- ③ 花きの生産技術向上とブランド化推進による産地力強化

- (2) 次世代につながる収益性の高い水田農業・畜産経営の確立  
競争力の高い農業生産基盤を実現するため、農地中間管理事業等を活用した担い手への農地の集積・集約化を推進するとともに、水田フル活用による収益性の高い水田農業の展開や、畜産経営の体質強化に向けた支援を行う。
- ① 農地集積・集約化による地域農業再編支援
- ② 収益性の高い水田農業の展開支援
- ③ 耕畜連携を生かした畜産の体質強化

- (3) 地域農業を支える多様な人材の確保・育成  
各市町担い手育成総合支援協議会等と連携して、産地の発展と地域農業の活性化を担う意欲ある担い手の育成を推進する。
- ① 意欲ある農業経営体の育成と経営の安定化・高度化支援
- ② 競争力のあるアグリビジネスの経営体の支援
- ③ 新規就農者等の確保・育成と多様な人材の活躍支援
- ④ 農村地域の担い手の育成

- (4) 農村地域の資源活用と持続可能な農業・農村の構築  
地域資源を活かした「なりわい」の創出による雇用機会の拡大や所得の確保に向けた取組みを行うとともに、「豊かな食」の生産基地としての役割を果たすため耕作放棄地対策や、有吾鳥獣害対策等を講じ、農業・農村の持続的発展を推進する。
- ① 地域資源を活用した多様な「なりわい」(ビジネス)の創出による地域振興
- ② 食と農への理解促進と安全・安心な農産物生産の取組支援
- ③ 環境と調和した持続可能な農業生産の取組支援
- ④ 遊休農地(耕作放棄地)の解消と野生鳥獣対策の取組支援
- ⑤ 自然災害に負けない強い農業・農村づくりに向けた支援

### プロジェクト課題

#### 1 新たな産品・技術導入による土地利用型法人の経営発展

(新規課題) <「園芸振興」関連課題>

- 大規模な土地利用型法人を対象に、将来を見据えた経営計画の策定・見直しと、園芸産品目や新技術導入による経営発展を支援する。
- ・対象: 農事組合法人長岡グリーンサポート、農事組合法人志賀
- ・計画期間: R4~R5
- ② 新品目・新技術定着支援
- ・目標: 園芸産品売上高の増加率
- 100%(R3) → 125%(R4) → 150%(R5)

#### 2 次世代を担う次世代の栽培技術等の習得による生産性向上

(新規課題) <「園芸振興」関連課題>

- 近年増加傾向にある、いちごの後継者を対象に、環境制御技術を中心とした技術支援を行いながら、生産者間のネットワーク構築を支援する。
- ・対象: 栽培を開始して1~3年のいちご生産者8人
- ・計画期間: R4~R5
- ① 環境制御技術等の習得による収量向上支援
- ② 栽培の基礎を中心とした勉強会開催による栽培技術向上支援、生産者間交流支援
- ・目標: 年内収量の増加率
- 100%(R3) → 105%(R4) → 110%(R5)

#### 3 担い手育成と果樹優良品種導入による果樹産地の維持発展

(新規課題) <「園芸振興」関連課題>

- 果樹産地構造改革計画に基づき優良品種の計画的導入により、若手果樹生産者の技術向上を図るとともに、産地イメージ向上のためのPR活動により産地の維持発展を支援する。
- ・対象: 若手果樹生産者(亘理町4人、山元町2人)
- ・計画期間: R4~R5
- ① 「亘理・山元果樹産地構造改革計画」推進支援
- ② 栽培技術向上・交流促進支援
- ③ 果樹産地PR支援
- ・目標: 果樹の新植・改植面積の増加
- 0a(R3) → 10a(R4) → 20a(R5)

#### 4 新たな取組の定着による持続可能なカーネーション産地の実現

(継続課題) <「園芸振興」関連課題>

- カーネーションの産地販売を実現するため、農家を対象にIPM、EOD-heating等の新たな生産技術の導入を図りながら、産地活性化を支援する。
- ・対象: 名取市カーネーション生産者16人(名取市)
- ・計画期間: R3~R4
- ① 新たな生産技術の導入支援
- ② 産地販売の導入支援
- ・目標: 新たな生産技術の導入農家数
- 3戸(R2) → 5戸(R3) → 8戸(R4)

### 普及センター活動(重点)

- 新規就農者の確保・育成支援  
対象: 新規就農希望者、新規就農者
- いちごの生産安定支援  
対象: いちご生産者
- 大規模園芸産地野菜法人の経営安定支援  
対象: 沿岸部の露地野菜栽培法人
- 水稲直積栽培技術の生産性向上支援  
対象: 水稲直積栽培を導入または導入の意向がある生産者

### 普及センター活動(一般)

- 収容性や競争力を高める農畜産物の生産
- 経営管理能力の向上
- 農畜産物の安全性確保の推進(放射線物質検査含む)
- 環境保全型農業の推進
- 農業・農村の担い手確保と育成
- 農村資源の保全と活用
- 消費者と農業者の相互理解の推進
- 情報発信等

### 調査研究課題

- プロジェクト課題等に關連して、現地での調査研究を普及指導員各人が調査内容を定着し、課題解決の糸口を見いだす活動。

